アイデムしごと探検隊

●実施日：2008年7月31日(木)

株式会社フレンテのお仕事探検！

株式会社フレンテ　http://frente.co.jp/

ポテトチップスやカラムーチョなどの総合スナックメーカーである(株)湖池屋と、猿のマスコットでお馴染みのピンキーなどのタブレット食品や機能性食品を扱う(株)フレンテ・インターナショナル、工場の機械のメンテナンスなどを行う(株)アシストの3社の統括・管理を行うグループ全体の持ち株会社。東京都板橋区にある(株)フレンテ本社には、グループ全体の広報部門や各社の商品開発部門などが集まっている。

”ポテトチップス職人“に出会って、仕事の楽しさを感じた子供たち

◆◆◆今回の任務は、「湖池屋」を探れ

7月31日、アイデム本社ビルに、小学5、6年生の”隊員“20人が集まった。ほとんどが初対面のメンバーばかりで、なかなか言葉も交わせず、緊張感が漂う。「アイデムしごと探検隊」の今回の”任務“は、ポテトチップス作りを支える人たちの話を聞きに行くこと。探検に出かける前に、自己紹介やゲームを通して、隊員たちの緊張をほぐしていく。

ところで、小学5、6年生が「仕事」という言葉からイメージするのは、どんなことなのだろう。「リストラ」「上下関係が厳しい」「疲れる～」「お給料」…隊員たちの口からポンポンと出てきた言葉はマイナス面が多く、スタッフは愕然。新聞やテレビで伝える社会は、確かに子供たちの言う通りかもしれない。

◆◆◆ポテトチップスは46歳？

さぁ、いよいよ「しごと探検」に出発だ。今回の探検先である(株)フレンテの本社は、緑の公園に面している。フレンテグループの中枢部門が集まったビルは、清潔で、とても静かだ。入り口には、(株)湖池屋のポテトチップスだけでなく、(株)フレンテ・インターナショナルのタブレット菓子なども並ぶ。どれも、コマーシャルなどでお馴染みの商品ばかりだ。会議室では、広報部の山岡さんが、会社の説明をしてくれた。

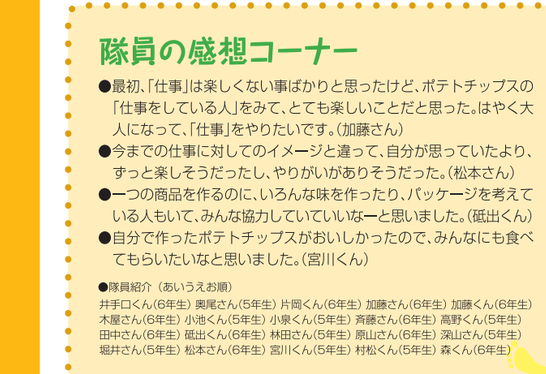
◆◆◆ポテトチップス職人は、作った人の愛情

そんな隊員たちに優しくアドバイスしてくれたのが、商品開発部の小池さん。「みなさんが今入れた粉の味を開発したり、お店で売っている商品の調査をしています」超ロングセラーのり塩も、実は、少しずつ味が変わっているのだそうだ。「塩分の加減とか、おいしいのりはないかなと、いつも研究しています」

隊員に、透明のビニール袋と、「ポテトチップス 味なし」のラベルがついた銀色の袋が用意されていた。会議室後方には、塩味やピザ風味など5種類の味付け用の粉が並んでいる。味なしポテトを透明のビニール袋に移し変えて、選んだ粉を加えたあと、シャカシャカと袋を振る。粉の組み合わせは隊員たちのセンス次第だ。隊員たちは、「買ったものよりもおいしい！」「割れないように持って帰って、お母さんに食べてもらうんだ」とおおはしゃぎ。自分で考えて、自分で作ったポテトチップスが、ちょっと自慢そうだ。

◆◆◆おいしさの秘密は、作った人の愛情

そんな隊員たちに優しくアドバイスしてくれたのが、商品開発部の小池さん。「みなさんが今入れた粉の味を開発したり、お店で売っている商品の調査をしています」超ロングセラーのり塩も、実は、少しずつ味が変わっているのだそうだ。「塩分の加減とか、おいしいのりはないかなと、いつも研究しています」



商品開発部の人たちはみな、食べ物全般に興味を持つように心がけていて、時代にあった味や新しい味を、常に探しているそうだ。新商品の開発に入ると、朝から夕方まで、ポテトチップスを食べ続け、食事がのどを通らない日もあるとか。

「でも、そうやって発売された商品を買ってくれる人を見ると、この仕事をしていて良かったなと思うんです」と小池さんはにっこり。そして、「お店に並んだ商品は自信作ばかり。どれも大好きな味ばかりです」と胸を張った。

◆◆◆ポテトチップス作りを支えるたくさんの仕事

最後は、隊員たちからの質問タイム。「じゃがいもや味付け用の粉は、どこから仕入れているの？」「パッケージのデザインは、どうしているの？」という問いに、山口課長が答えてくれた。「じゃがいもは全て国産で、ポテトチップス専用の品種を、農家の人たちに作ってもらっています。粉を作る専門の会社もあります。パッケージは、外部のデザイナーさんと一緒に考えています」一袋のポテトチップスにも、たくさんの人の「仕事」が隠れていたのだ。

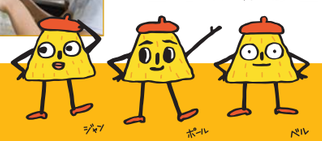
◆◆◆子供達に届いた思い。

アイデム本社に戻ってきた隊員たちの口からは、仕事に対する考え方に変化が…。「仕事って、やっぱり大変そうだったけど、なんだか面白そうかも。」「たくさんの努力があるから、おいしいお菓子が生まれるんだね」

「たくさんの人に、長く愛してもらえるような商品を育てていくのが、わが社の理念です。湖池屋のポテトチップスのり塩が発売されたのが46年前。みなさんが生まれるよりずーっと前でしょ」という言葉には、隊員たちもびっくり。

◆◆◆自分だけのポテトチップス作りに挑戦

工場の様子を、ビデオで説明してくれたのは、広報部の山口課長。じゃがいもの皮をむいて、パッケージにつめるまでの作業は、ほとんど機械が行っている。袋詰めされた商品はダンボールに梱包され、倉庫に積み上げられる。工場内の倉庫がビデオに映った瞬間、隊員たちから「うわーっ」と小さな歓声があがる。「次は、世界でたったひとつのポテトチップスを作ってみよう！」と山岡さん。



小池さんたちの笑顔が、仕事にマイナスイメージばかりを抱いていた子供たちに、大切なことを伝えてくれたのだろう。自分で考えたことが形になる面白さ。大変なこともあるけれど、それを乗り越えたときの喜び。難しい言葉はなかったけれど、子供たちには確実に届いたに違いない。仕事への情熱や思い、それを子供達は今回の探検を通じて感じていた。

隊員の感想コーナー

●最初、「仕事」は楽しくない事ばかりと思ったけど、ポテトチップスの「仕事をしている人」をみて、とても楽しいことだと思った。はやく大人になって、「仕事」をやりたいです。(加藤さん)

●今までの仕事に対してのイメージと違って、自分が思っていたより、ずっと楽しそうだったし、やりがいがありそうだった。(松本さん)

●一つの商品を作るのに、いろんな味を作ったり、パッケージを考えている人もいて、みんな協力していていいなーと思いました。(砥出くん)

●自分で作ったポテトチップスがおいしかったので、みんなにも食べてもらいたいなと思いました。(宮川くん)

●隊員紹介（あいうえお順）

井手口くん(6年生) 奥尾さん(5年生) 片岡くん(6年生) 加藤さん(6年生) 加藤くん(6年生)
木屋さん(6年生) 小池くん(5年生) 小泉くん(5年生) 斉藤さん(6年生) 高野くん(5年生)
田中さん(6年生) 砥出くん(6年生) 林田さん(5年生) 原山さん(6年生) 溪山さん(5年生)
堀井さん(5年生) 松本さん(6年生) 宮川くん(5年生) 村松くん(5年生) 森くん(6年生)

スタッフからみんなへ

いつも食べているポテトチップスも、味を考える人や工場で働く人たちの「仕事」に支えられていました。働いている人から話を聞いて、仕事には大変なこともあるけれど、楽しいことややりがいもたくさんあることを感じてもらえたと思います。お父さんやお母さんにも、仕事の話を、ぜひ聞いてみてね。